岳南朝日新聞　令和５年(2023年)　８月31日(木曜日)　朝刊１ページ

日刊 岳南朝日　2023年（令和５年）8月31日（木曜日）第21220号

富士山の火山防災・環境テーマに

各国協力での初の研究発表

あいさつする尾池学長

静岡県立大学グローバル地域センター主催、県富士山世界遺産センター共催の同地域センター自然災害研究部門（NaDiR）第3回研究会「富士山の火山防災・環境研究の最前線」が29日、同世界遺産センターで開かれた。専門家の研究論文などを発表する学会は都心などで行われることが多いが、富士山の研究成果などを発表し、富士山溶岩からの警戒避難のあり方などを語った。

グローバル地域センターは、静岡県立大学の付属機関として設立された調査研究機関で、地域の課題についてグローバルな視点で調査研究を行うとともに、その成果を広く情報発信することにより、地域の発展に寄与することを目的にしている。

その中の自然災害研究部門は、県の要請によって2016年に設立された地震予知部門から改組された部門で、富士山及び南アルプスから日本一深い駿河湾まで、静岡県の自然すべてを対象とした地震・津波・火山・風水害など自然災害に関する調査研究を行い、その成果を発表することで県民の防災意識を向上させることを目指している。

同研究会は年5～6回実施しているが、今回は富士山世界遺産センターで18日まで企画展「地層剥ぎ取り資料が語る富士山の噴火と崩壊」が開かれていることに合わせ、同センターを会場に行われた。また、オンラインでの一般聴講も行った。

同日は同大の尾池和夫学長があいさつに立ち、「富士山ほど不思議な山はない。1つ例を挙げれば、地下15キロ以ほどに大きなマグマだまりがあるのに、東日本大震災などがあっても上がってくる兆候すらない。しかし、いつ噴火するのか分からない。そんな山。今日はしっかりと議論し合ってほしい」と述べた。

引き続き、県富士山世界遺産センター教授の小林淳さんをはじめ、萬年一剛さん（神奈川県温泉地学研究所主任研究員）、吉本充宏さん（山梨県富士山科学研究所研究管理幹）、鴨川仁さん（静岡県立大学グローバル地域センター特任教授）、長尾年恭さん（同客員教授、東海大学海洋研究所客員教授）、楠城一嘉さん（同地域センター特任教授）がそれぞれの研究成果を発表した。

小林さんは「静岡県域の地形特性から見た富士山噴火に対する警戒避難のあり方」と題し、富士山周辺地域にとって被害が大きい噴火口から噴火したと想定し、どのように溶岩が流れるかのシミュレーション結果を公開。

これまでの富士山溶岩の流れや地層、富士宮市が発表しているハザードマップなどさまざまな資料に加え、現在の地形を考えることで、「噴火する場所によって溶岩の流れは変わる。例えば大沢崩れ以北で噴火した場合は芝川・富士川沿いに、大沢崩れから山宮周辺で噴火した場合は富士宮・富士の中心地へと溶岩は流れる。また、噴火発生場所を問わず溶岩流が集中する場所もあり、避難するにはそぐわないと言える。噴火はどこで起こるか分からない。さまざまなパターンを想定して避難計画などを考えてほしい」と訴えていた。

発表する小林教授

このほか、宝永山が噴火した場合の降灰シミュレーション、富士山の通年カメラによる監視実証実験の結果、富士山直下で起きる地震に基づくマグマ活動の監視などの研究・調査が発表された。

参加者による質疑応答では、「噴煙などによって目視ができない場合はどうするのか」といった質問に別の専門家から「現在、音によるリアルタイムな情報収集ができないかといった研究が進められている」といった応答が交わされていた。

岳南朝日

岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1
代　表　(0544)28-0200
FAX　(0544)28-0218
編　集　(0544)28-0234
営　業　(0544)28-0220
月977円　1部60円

MEITOKU
明徳建設株式会社
真心が生み出す確かな安心。
☎(〇五四四)二八-三〇二五

購読申し込み先
●富士吉（0544）
鈴木新聞店☎26-3285
中野新聞舗☎23-3333
ツタウエル☎26-1100
中野新聞販売店☎23-3333
中西新聞店☎28-1133
●吉原（0545）
植草新聞店☎52-0370
鈴木新聞店☎52-5503
墨野新聞堂☎52-0376
●富士（0545）
石井新聞店☎61-5049
南森新聞舗☎61-1333
田畑新聞店☎61-0011
墨野新聞堂☎61-0275
●岳南（0545）
安倍新聞店☎71-3327
鈴木新聞店☎71-8156
中野新聞販売店☎71-2647
鈴木新聞販売店☎71-2647
●富士川（0545）
松野新聞販売所☎85-2093